

県議会議員

# あらい、絹世の磯っ子レポート

県政をもっと身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

## サザエの栽培漁業などに実績 神奈川県の水産技術センター

海水浴や磯遊びにと海のシーズンが真っ盛りです。県内でも湘南海岸や三浦半島がにぎわっていますが、一方で海といえば漁業です。「魚食大国ニッポン」を支える大事な産業ですが、日本の年間漁業生産量(漁業・養殖業)は1984(昭和59)年の1282万トンピークに減少する一方で、2014年には480万6082トンにまで落ち込みました(ちなみに世界一は中国)。このうち神奈川県は3万3567トンで全国の都道府県で29位にランクされています。三崎に水揚げされるマグロ、沿岸のサバ、アジなどが主なものです。そして神奈川県の漁業に関連する施設として三浦市三崎町城ヶ島に県水産技術センターがあり、分場として小田原に相模湾試験場、相模原に内水面試験場があります。それぞれ見学コーナーもあり、近く(川辺)を訪れた際、立ち寄ってはどうぞ(月～金曜日、要予約)。

同センターの前身は1912(明治45)年、県庁内に設置された水産試験場の事務所で、庁舎は小田原への移転を経て1942(昭和17)年に三崎町に移りました。1997(平成9)年に新庁舎が竣工するとともに2005年には水産技術センターに改称しました。技術センターというと調査・研究をしている地味な施設と思われがちですが、県内の船舶を指導する漁業取り締まりや、貧酸素水域・赤潮の観測、関東東海海況速報、東京湾口海況図、漁況予報「いわし」、浜の話題などの漁海況情報の提供なども手掛けています。センターでは水産物の利用・河口に関する事項、水産資源および水域生態系事項などの研究を行っていますが、相模湾試験場では定置網の改良・開発、内水面試験場ではアユ種苗の量産技術開発などの研究を手掛けています。

漁業の盛んなところというと北海道や長崎、青森などが挙げられ、水産・漁業の研究・調査施設もそれなりに充実していますが、神奈川の水産技術センターは県外からの視察もあるほど先進的な機能も持っているとのこと。このひとつがサザエの種苗の生産の研究・技術開発で、全国的に数少ない試みであり、「獲りすぎないようにしながらサザエを獲る工夫」として成果を挙げています。また「マダイ・ヒラメ種苗放流効果調査」、最新の取り組みである「緑色LED光によるマコガレイの稚魚の成長促進の研究」などにも取り組んでいます。昨年2月には新しい漁業調査指導船「ほうじょう」を1億3000万円の費用で建造、相模湾試験場に常備しています。同センター(電話046-882-2311)にはマダイを飼育している大きな池、両試験場にもミニ水族館を供えた見学コーナーもあり、外部に開放しています。



### コレが言いたい!

今年3月に改定された「かながわ水産業活性化指針」では、県民に豊かな海・川等の「恵み」と、生活への「潤い」を将来にわたって提供していける「活力」ある水産業の実現をめざす事とし、水産技術センターでの研究調査が重要な役割を果たしています。次の世代に安心して引き継げる水産業を実現するため、負担軽減につながる作業支援ロボットなどの生産現場への導入支援に取り組むこととし、水産技術センターで研究が進められています。

### 今月のひと言

九都県市では、地球温暖化防止や節電につながる「クールシェア」を推進しています。夏の暑い日、家庭で使用する電力の半分以上をエアコンが消費しています。「クールシェア」とは、ひとり一台のエアコンの使用をやめ、例えば公共施設やお店など暑さを忘れて過ごせる場所に集まり、涼しい場所をみんなでシェアし、夏の省エネ・節電に取り組むものです。

# 磯子あれ？これ？

## 山王台小学校

山王台小学校は、浜小学校から別れ昭和54(1979)年に「浜小北方面校」として建設が始まり、翌昭和55年9月に開校しました。学校名は、教員・父母・地域の人たちから募集し、山王谷(さんおうや)の高台にあることから「山王台小学校」と命名しました。

校章は、全校児童・父母・教員から募集し、3人の生徒の作品をもとにプロのデザイナーによって仕上げられました。デザインは児童・父母・地域住民・教職員の和(輪)と磯子の海(波)と世界の海を表現して、広い視野を育む願いが込められています。校歌は、学校の周囲の様子を表す「海・丘・くすの木」をテーマに作られました。

また、同校では月1回「音楽朝会」をおこない、地域の人々が参加して児童と一緒に歌ったり、楽器の演奏を聴いたりして交流を図っています。同会は長期休暇を除き、通常毎月最終月曜日午前8時20分頃から始まります。どなたでも参加できますので、一度覗いてみては・・・。

この他にも地域との交流活動で、山王台小の歌が好きな子供達が、岡村梅まつり(毎年2月)・久良岐まつり(毎年11月)で歌を披露しています。

参考：学校長の話・創立30周年記念誌

## 活動報告

7月25日(月)、自民党県民部会で「神奈川県中央児童相談所」と子どもの心身の健全な発達や、障害のある方の障害の軽減と自立を支援するための施設「総合療育相談センター」を視察しました。「神奈川県中央児童相談所」は藤沢市、茅ヶ崎市、大和市、寒川町を所管する児童相談所で、養護・健全育成相談や不登校に関する相談など、18歳未満のお子さんに関するさまざまなご相談に応じています。児童虐待相談受け付け件数は年々増えていますが、児童虐待は、様々な要因から起こる事から、相談所と市町村の更なる連携強化が必要です。また、寄せられる相談が増え続ける中、多くの業務を行っているのが現状であり、経験を持った職員の増員も課題です。



7月27日(水)・28日(木)、自民党県議団では平成29年度予算編成に向けて県内の市町村の課題・要望を聞く「市町村ヒアリング」を県内4か所で開催致しました。本県は今後も人口増加が見込まれる地域・人口が既に減少している地域が混在しており、正に日本の縮図とも言え、各市町村が抱える課題も様々です。県としては広域的な観点から、市町村等の調整機能を果していく必要があります。



### あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 県民・スポーツ常任委員会委員長
- 社会福祉審議会委員

